

リハビリ特化型デイサービス業界地図

nagomi、GENKI NEXTの2強が店舗数で他を引き離す

■図表1 デイサービスの2012年基本報酬の改定(通常規模型通所介護費)

所要時間5時間以上7時間未満の場合	
要介護1	602単位/日
要介護2	708単位/日
要介護3	814単位/日
要介護4	920単位/日
要介護5	1,026単位/日

所要時間6時間以上8時間未満の場合	
要介護1	677単位/日
要介護2	789単位/日
要介護3	901単位/日
要介護4	1,013単位/日
要介護5	1,125単位/日

所要時間7時間以上9時間未満の場合	
要介護1	690単位/日
要介護2	811単位/日
要介護3	937単位/日
要介護4	1,063単位/日
要介護5	1,188単位/日

出所：社会保障審議会介護給付費分科会

■図表2 個別機能訓練加算の算定要件

個別機能訓練加算Ⅰ	
①	指定通所介護を行う時間帯を通じて、専ら機能訓練指導員の職務に従事する常勤の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護職員、柔道整復師又はあん摩マッサージ指圧師(以下、「理学療法士等」という。)を1名以上配置していること。
②	個別機能訓練計画の作成及び実施において利用者の自立の支援と日常生活の充実に資するよう複数の種類の機能訓練の項目を準備し、その項目の選択に当たっては、利用者の生活意欲が増進されるよう利用者を援助し、心身の状況に応じた機能訓練を適切に行っていること。
③	機能訓練指導員、看護職員、介護職員、生活相談員その他の職種の方が共同して、利用者ごとに個別機能訓練計画を作成し、当該計画に基づき、計画的に機能訓練を行っていること。
個別機能訓練加算Ⅱ	
①	専ら機能訓練指導員の職務に従事する理学療法士等を1名以上配置していること。
②	機能訓練指導員、看護職員、介護職員、生活相談員その他の職種の方が共同して、利用者の生活機能向上に資するような利用者ごとの心身の状況を重視した個別機能訓練計画を作成していること。
③	個別機能訓練計画に基づき、利用者の生活機能向上を目的とする機能訓練の項目を準備し、理学療法士等が、利用者の心身の状況に応じた機能訓練を適切に行っていること。

資料：図表1に同じ

■図表3 リハビリ特化型デイサービス主要FCチェーン企業の概要

ブランド名	nagomi	GENKI NEXT	早稲田イーライフ	Let's倶楽部	ジョイリハ	ポシブル	カラダラボ※
会社名	(株)nCS(イーライフグループ(株)100%子会社)	(株)介護NEXT	(株)早稲田エルダリーヘルス事業団	(株)ほっとステーション	(株)ウェルネスフロンティア	ポシブル医科学(株)	(株)ヒューマンリンク
本社所在地	東京都豊島区	群馬県伊勢崎市	東京都大田区	東京都品川区	東京都墨田区	大阪府中央区	北海道江別市
設立	2009年4月	2009年4月	2004年5月	2006年5月	2004年7月	1999年2月	2010年8月
資本金	1,000万円	1,000万円	1,000万円	3,000万円	1,000万円	2億0,102万5,000円(2012年9月現在)	—
FC展開開始年	2008年	2008年	2007年	2010年	2009年	2009年	2010年
チェーン店舗数(うち、直営店舗数)	139店舗 29店舗	135店舗 27店舗	66店舗 14店舗	61店舗 3店舗	58店舗 25店舗	34店舗 21店舗	34店舗 —
FC加盟事業者数	65事業者	—	27事業者	49事業者(58店舗)	—	13事業者	—
主要展開エリア(都道府県)	全国	東京、埼玉、神奈川、千葉、栃木	全国	東京ほか日本全国	北海道、東北、首都圏、四国、新潟、愛知、三重、京都、大阪、広島、福岡、沖縄	関西圏	北海道、茨城、群馬、静岡
12年度新規出店数	23店舗	61店舗	13店舗	32店舗 ※2012年4月~2013年3月	24店舗	直営5店舗	—
13年度新規出店数(予定含む)	33店舗	40店舗	25店舗	35店舗 ※2013年4月~2014年3月	—	直営4店舗、FC3店舗、2014年1月オープン予定1店舗 計8店舗	—

店舗数などは2013年10月現在
ブランド名横の※は事業者ホームページなどにより作成
出所：「リハビリ特化型デイサービス事業化計画資料集」(総合ユニコム)より一部抜粋

■図表4 主要フィットネスクラブ運営企業のリハビリ特化型デイサービス参入状況

会社名	リハビリデイ店舗数	参入状況
(株)ルネサンス	4	12年7月、13年8月に「ルネサンスリハビリセンター」オープン、13年1月、9月に「ルネサンス元気ジム」オープン
(株)東京アスレチッククラブ	3	13年3月に1号店(東京都武蔵野市)、同年4月に2号店(東京都中野区)、14年4月に3号店(東京都豊島区)をオープン予定
セントラルスポーツ(株)	2	12年5月にさいたま市で1号店、13年11月に埼玉県川口市に2号店をオープン
(株)キッツウェルネス	2	13年3月に神奈川県茅ヶ崎市に1号店、14年4月に2号店を神奈川県平塚市オープン予定
(株)コナミススポーツ&ライフ	—	14年4月より、「悠々いきいき倶楽部」(フランスベッド(株))の直営店にオリジナルの運動プログラムを導入

※編集部調べ。店舗数は開設予定も含む

FCチェーン系が業界をリード 本業を活かしたフィットネス系の参入も

「自立支援」を重視する政策が後押し
存在感を強めるリハビリデイ

「リハビリ特化型デイサービス」(以下、リハビリデイ)とは、介護保険上では「通所介護」(デイサービス)に組み込まれるもので、制度上の明確な定義は存在しない。簡潔に言えば、一般のデイサービスの基本となる「食事」「入浴」「排泄」などの「日常生活上の世話」は提供せず、介護保険がデイサービスに期待する「自立支援」に資する、「機能回復訓練」「運動機能向上」などを目的としたリハビリテーションに特化したサービスを提供するデイサービスである。

明確な定義は存在しないという点、制度上は一般の「通所介護」としてカウントされることから、市場規模や事業所数などは正確に捕捉することはできないが、このリハビリ特化型デイサービスは、2006年以降、食事や入浴、レクリエーションを主体とした「レスパイト」(預かり)型のデイサービスを凌ぐ勢いで増加していることは間違いない。また、預かりを中心としながらも、提供サービス

のなかにリハビリプログラムを提供しているデイサービスも多い。

リハビリデイ増加の背景には政府の思惑がある。まず、2005年(06年施行)のはじめての介護保険制度改正では、要支援高齢者を対象とした「介護予防給付」を創設。制度創設以降、右肩上がりにふえ続ける介護給付費を抑制すべく、要介護高齢者をふやさない「予防」を重視した政策を打ち出した。

さらに12年には、提供時間区分の見直しによるデイサービスの基本報酬実質切下げと、個別機能訓練の二段階加算(図表1、2)という経営の根幹に関わる改正が行なわれ、「自立支援」に資さないデイサービス、すなわち「預かり」オンリーのデイサービス事業所は評価しないという国の姿勢が明確になった。この流れは現在も続いており、次回15年の改正では、デイサービスの基本報酬切下げ、加算部分を厚くするという方向性がより加速するというのが大方の見方だ。

リハビリデイでは、レスパイト型のデイサービスにはない各種運動器具やリハビリ機器を導入、理学療法士や作業療法

士、言語聴覚士、健康運動指導士等の専門職を配置し、利用者との個別指導を重視したプログラムを実施する。一般的なデイサービスの基本報酬に加え、これら専門職が個別プログラムを提供することによる個別機能訓練加算、さらに介護予防通所介護費、選択的サービス(運動機能向上サービス、栄養改善サービス)複数実施加算、生活機能向上グループ活動加算など、提供するサービスの質や内容によって複数の加算対象がある。

チェーン系が中心勢力を形成 異業種からはフィットネス系も参戦

デイサービス全体にもいえるが、リハビリデイもフランチャイズ方式を活用したチェーン系が業界をリードしている。13年10月現在の店舗数トップは「nagomi」のイーライフ・グループ(株)で、139カ所を展開。12年度23カ所、13年度は33カ所(予定)を新規出店している。

2番手は「GENKI NEXT」の(株)介護NEXTで、13年10月時点で135店舗。12年度61店舗、13年度40店舗(予定)とトップの「nagomi」を急追する。3番手以降は、「早稲田イーライフ」の(株)早稲田エルダリーヘルス事業団(66カ所、「LET'S倶楽部」の(株)ほっとステーション(61カ所)、「ジョイリハ」の(株)ウェルネスフロンティア(58カ所)で拮抗

以下、「ポシブル」(ポシブル医科学(株)34カ所)、「カラダラボ」(株)ヒューマンリンク34カ所)と続く(図表3)。

この分野への新規参入も注目すべき動きといえ、とりわけ目立つのが「運動のプロ」ともいえるフィットネスクラブ経営企業の参入だ。もともと、「介護予防教室」など、自治体の地域支援事業へのインストラクターの派遣などを行ってきた各クラブだが、フィットネスクラブでは折からの不況や価値観の多様化による若年層の取込みの不調、それに伴う会員の高齢化が長らくの課題となっていた。高齢になった会員は「フィットネスクラブを卒業」していく。さらなる高齢社会の進展が強まるなか、リハビリデイ分野に着目したのは必然だろう。

すでに(株)ルネサンス(4カ所)、セントラルスポーツ(株)(2カ所)などが参入。業界最大手の(株)コナミススポーツ&ライフは、店舗展開こそまだないが、14年4月よりフランスベッド(株)がFC展開するリハビリデイ「悠々いきいき倶楽部」に、同社オリジナルの運動プログラムの導入が決定するなど、大手企業が揃って参入。このほかにも、(株)東京アスレチッククラブや(株)キッツウェルネスが13年3月に揃って参入しており、今年4月に前者が3カ所め、後者は2カ所めをオープンする(図表4)。